

■ 日漢協トピックス

薬用作物(生薬)産地化推進のための行政担当者情報交換会 開催

11月29日(金)、AP東京八重洲会場において、薬産協主催による行政担当者を対象とした情報交換会がハイブリッドで開催された。当日は、会場に12名、リモートで41名、計53名の参加者があった。

冒頭、農林水産省農産局 果樹・茶グループ 生産専門官 梶 恵美先生がご挨拶された後、下記の通り、2つの自治体ならびに東京生薬協会より薬用作物栽培への取り組みについて、説明があった。



【梶 恵美先生】

- ◆「北海道名寄市における薬用作物栽培振興の取組について」(リモート)
北海道名寄市役所経済部農務課農業振興係 係長 六郎田 直人先生
- ◆「三豊市における薬用作物 ～ 持続可能な農業への取り組み ～」
香川県三豊市 市長 山下 昭史先生
- ◆「今、なぜ国内生薬の栽培か
— 東京生薬協会における薬用植物国内栽培の取組み —」
公益社団法人東京生薬協会 専務理事 末次 大作先生

講演終了後には、意見交換会が開かれ、様々な質問、提案、課題の提示など、活発な情報交換が行われた。今回は、行政主導で薬用作物の生産拡大を行うためには、行政トップの役割が非常に重要であることが改めて浮き彫りとなった。また、薬用作物の栽培は課題が多いが、栽培技術を向上させる等により持続可能な産業につなげることも可能ではないか、など現実を直視しながらも前向きな意見も挙げられた。



【会場の様子】



【六郎田 直人先生(リモート)】



【山下 昭史先生】



【意見交換会の様子】



【末次 大作先生】